

SS-MIX普及推進コンソーシアム

SS-MIXとは？

平成18年度、厚生労働省は、さまざまなインフラから配信される情報を蓄積するとともに標準的な診療情報提供書が編集できる「標準化ストレージ」という概念に着目し、すべての医療機関を対象とした医療情報の交換・共有による医療の質の向上を目的とした「厚生労働省電子的情報交換推進事業」(SS-MIX: Standardized Structured Medical Information eXchange)を開始しました。

SS-MIXは、記録された医療情報の電子化・標準化に向けた啓発活動の一環として、具体化したパッケージウェアの普及を行うものであり、

- * パッケージウェアの開発
- * ドキュメントの整備
- * 各ベンダによる同一の規格を実装したシステムの開発と普及を行う事業です。

電子的に診療情報が交換されるためには標準化されていることが前提です。

標準化のための費用負担が医療機関にとって厳しいものであることは事実であり、その負担を軽減することにより、電子化と標準化を併せて推進するものです。

医療機関には、その診療上の特性や規模、経済状況等のさまざまな事情から、インフラの導入状況にばらつきがあります。

標準的な診療情報の交換・共有を推進するにあたっては、アウトプットが標準化されていることは重視されますが、これらのインフラのすべてを医療機関に過大な負担を強いてまで標準化対応されたものに入れ替えることはナンセンスです。そのようなことが無いよう、導入済みのインフラは生かされるべきであると考えます。

コンソーシアムホームページ <http://www.ss-mix.org/cons>

SS-MIX2とは？

SS-MIX2とは、SS-MIX事業で作成された「標準化ストレージ」の仕様を、日本医療情報学会(JAMI)が中心となりHL7 Ver.2.5に準拠し改定したものです。

2016年3月に厚生労働省標準規格として採用されており、最新の仕様書はJAMIのホームページから入手が可能です。

- ・SS-MIX2 標準化ストレージ 仕様書 Ver1.2
- ・SS-MIX2 標準化ストレージ 仕様書 Ver1.2_コード表
- ・SS-MIX2 標準化ストレージ 構成の説明と構築ガイドライン Ver1.2

会員会社（敬称略 五十音順）

株式会社アイシーエス
ICソリューションズ株式会社
株式会社アイセルネットワークス
イーピーエス株式会社
株式会社石川コンピュータセンター
株式会社イナホ
インターシステムズジャパン株式会社
株式会社ウィンテックコミュニケーションズ
株式会社エーシーエス
NECソリューションイノベータ株式会社
株式会社エムアイユー
株式会社SBS情報システム
株式会社NTTデータ
株式会社NTTデータ東海
キヤノンメディカルシステムズ株式会社
株式会社くすりの窓口
Genomedia 株式会社

有限会社礪川システムデザイン事務所
株式会社サイバーリンクス
株式会社シーエスアイ
システムロード株式会社
株式会社ストローハット
株式会社ソフトウェア・サービス
ソフトマックス株式会社
大新技研株式会社
株式会社デジタルソサエティー
東和薬品株式会社
株式会社ナイス
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本光電工業株式会社
日本電気株式会社
日本メディカルソリューションズ株式会社
株式会社ノーザ
PHC株式会社

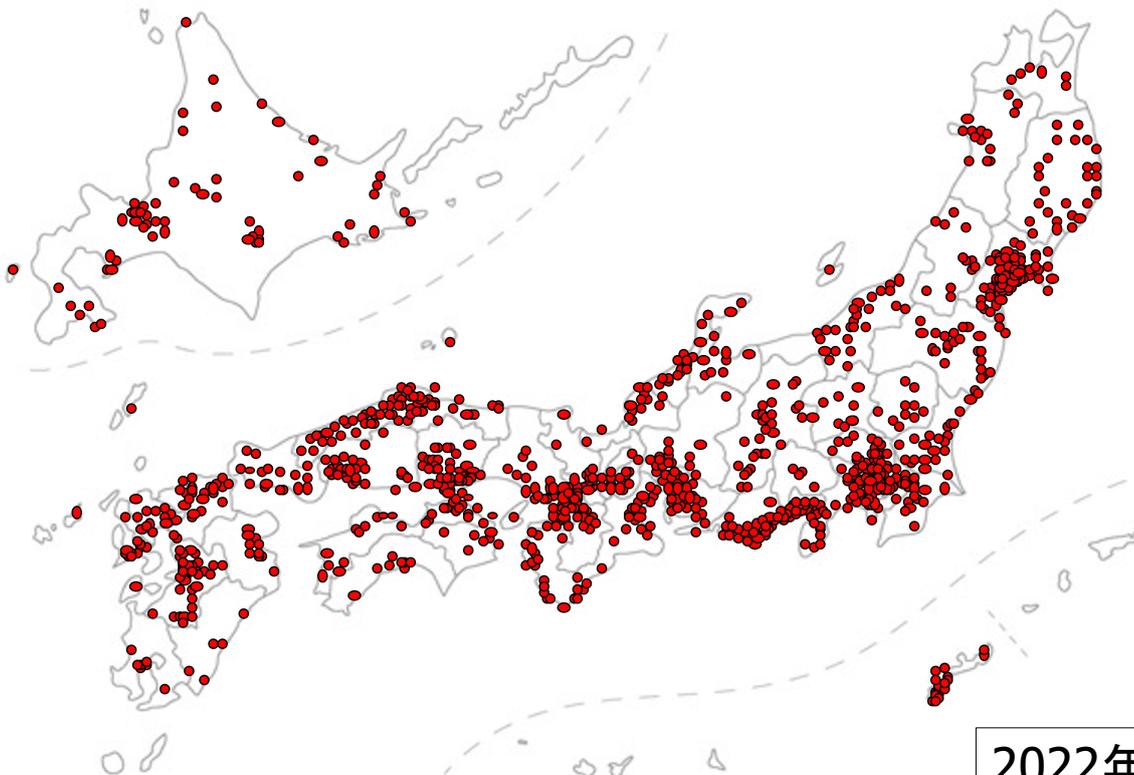
株式会社BSNアイネット
PSP株式会社
東日本電信電話株式会社(NTT東日本)
株式会社ファインデックス
フクダ電子株式会社
富士通Japan株式会社
富士フィルムヘルスケアシステムズ株式会社
富士フィルムメディカルITソリューションズ株式会社
株式会社マックスシステム
有限会社ミキ
株式会社メタキューブ
株式会社メディス
メビックス株式会社
株式会社両備システムズ
株式会社レゾナ
株式会社ワイズマン



SS-MIXの全国普及状況

SS-MIX標準化ストレージMAP

SS-MIX標準化ストレージ導入施設
(処方・検体検査含む) **1,148 施設**



2022年3月末時点

SS-MIXストレージ導入	患者基本のみ	処方・検体検査含
1,706 施設(1652)	1,663 施設(1598)	1,148 施設(1214)

拡張ストレージ導入

1,130 施設(1131)



SS-MIXに関する アンケートの結果報告

コードの標準化

投薬注射コードの標準化

ストレージ内に投薬注射データを持つ施設数の内
HOT7あるいはHOT9に対応していると回答した施設数

推奨されるコードHOT(7~)9への対応率 129/1150=11.2% ↑

2021年は127施設 10.4%

検体検査結果コードの標準化

ストレージ内に検体検査データを持つ施設数の内
JLAC10 に対応していると回答した施設数

推奨されるコードJLAC10への対応率 283/1123=25.2% ↑

2021年は269施設 25.0%

文書管理コードの標準化

推奨されるコードLOINCコードへの対応
全てまたは一部でLOINCを使っている施設数 **182施設**

標準化ストレージ利用目的（複数回答可）

バックアップ(災害時)	806
バックアップ(システムダウン)	1
バックアップ(リプレイス)	6
バックアップ(その他)	362
地域連携	1,119
文書関連	204
院内部門システム連携	32
MID-NET	20
臨床研究	24
症例データベース参加	31
その他	58

バックアップ

1,175
↑ (1158)

地域連携

1,119
↑ (1094)

文書関連

204
↑ (38)

院内部門システム連携, 研究活用, 75

32
→ (32) ↑ (72)

その他, 58

カッコ内は2021年の状況



拡張ストレージの構築ガイドライン

構築ガイドライン Ver1.2d

今般SS-MIXに関する文書が改定され、

SS-MIX2 拡張ストレージ構成の説明と構築ガイドラインVer1.2d

がJAMIより文章一覧と共に公開されています。

拡張ストレージは検査・読影レポートや退院時サマリ、手術記録などの非標準化データを格納するためのもので今回の文書の中ではさらにコンテンツフォルダの定義、(拡張)トランザクションストレージ、(拡張)インデックスデータベースなどが示されていることが特徴です。

データ種別フォルダの命名規則に関して 以下のことが書かれています。

HL7Ver2.5におけるCWE型に倣い、ローカル及び標準の文書コード体系にて顕される情報に対応・結合させることにより、以下の如くフォルダを命名する。

ローカル文書コード^ローカル文書名称^コード^体系コード^
標準文書コード^標準文書名称^標準コード^体系コード「LN」)

・標準文書コードは xxx、ローカル文書コードは Lxxx と表記する
命名の例

L010234^牽引療法記録^LHama16^28579-1^理学療法記録^LN

詳細はJAMIのホームページをご参考になしてください

<http://www.jami.jp/jamistd/ssmix2.html>

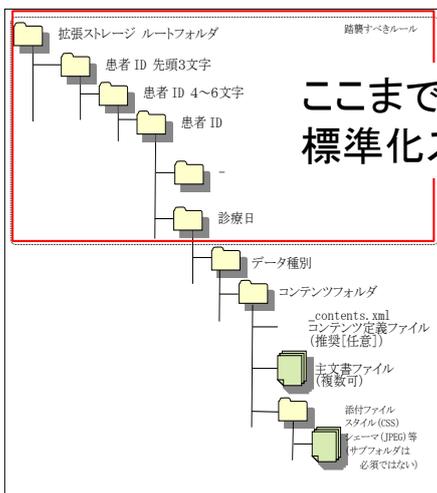


図 2.2-2 物理構造

ここまでの構造は
標準化ストレージと同じ

分類	文書個別	コード
調査票		74465-6
検診・ 健診報告書		53576-5
証明書	診断書	70004-7
	死亡診断書	64297-5
	出生証明書	71230-7
	入院証明書 (上記にないもの)	64299-1
意見書	処方疑義照会	73709-8
	(上記にないもの)	11488-4
委任状		64298-3
明細書		51899-3
確認書	救急部確認書	78447-0
	麻酔確認書	78495-9
	手術確認書	78503-0
	(上記にないもの)	51848-0
同意書 (説明同意書)	個人情報扱い同意書	57016-8
	臨床研究同意書	77602-1

LOINCコードによる大分類、中分類、ローカル対応(案)

拡張ストレージの物理構造

LOINC(Logical Observation Identifiers Names and Codes)コード

インディアナ大学で生まれた、フリー使用が可能な検体検査項目、臨床項目および文書等の世界標準コードである